

# 事業の課題

## ●平成17年度ユビキタス事業で明らかになった課題（全国的な普及のための条件）

- 1) 農薬登録情報やJANコードデータなど、システム運用に不可欠な農薬関連データの収集と汎用的な提供  
➤ 多種多様なシステムがネットワーク(Web)経由で利用できる農薬関連データ収集・提供の共通基盤システムの構築
- 2) 農薬適正使用事前判定、履歴自動記帳の仕組みの農薬以外の生産資材への適用  
➤ 動物用医薬品、肥料、飼料などの「生産資材データベース」と「生産資材適正使用ナビゲーションシステム」の構築



## ●今年度事業における課題の再設定（今年度事業で解決すべき課題・問題点）

- 1) 動物用医薬品に代表される農業資材全般のデータを誰でも利用できる共通基盤データベースおよび低コストに事前判定・警告・履歴記帳できるシステムの構築  
➤ 生産・出荷段階における生産資材適正使用および使用履歴記帳の促進
- 2) 小規模な流通・小売業者が、省力的に流通履歴情報を登録・共有できるシステムの構築  
➤ 流通段階におけるトレーサビリティ・システム普及の促進



## ●今年度事業における課題の実現方法（継続利用を前提とする）

- 1) 平成17年度ユビキタス事業でJAてんどう等個別事業主体向けに開発した「農薬ナビを活用した農薬使用リスク管理システム」をベースに、全国の複数の農協が低コストで利用できるように、また、動物用医薬品等生産資材全般に対応できるように、汎用的な集中情報処理提供システムを新規に構築する。
- 2) 小規模な流通・小売業者における実用性・普及が期待できるように、送り状単位でのロット形成に対応し、流通履歴情報の登録・照会がQRコードのみで可能なシステムを新規に開発する。  
このシステムは、農林水産省「食品トレーサビリティ・システム導入の手引き」および「品目別ガイドライン」を参考にした簡易なシステムとする。